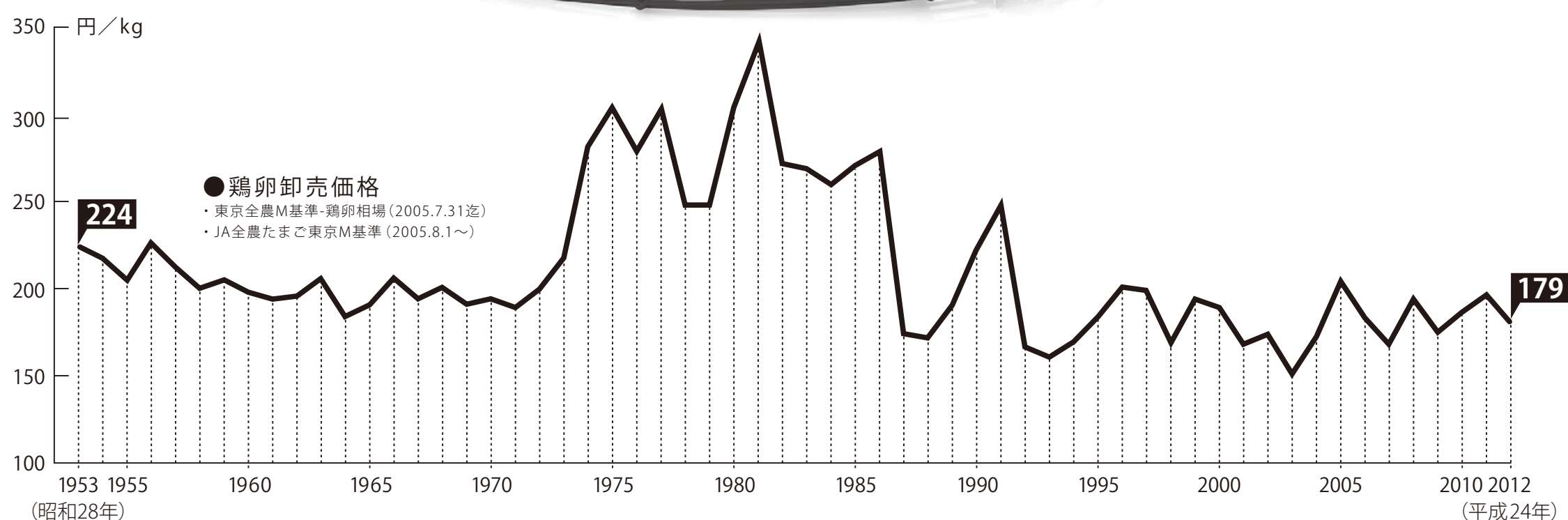


卵の未来を、 助けてください。

卵が生食できる。実は世界でも珍しいことなのです。これは日本の鶏卵生産者の品質管理が優れている証拠です。しかし今、「卵の生食」に危機がきています。
安全のためのコストが膨れ上がり、生産者の経営状況がとても悪化しているのです。



たまご1kgは、Lサイズでは15個、
Mサイズでは16個くらいの目安になります。



卵の卸売価格は、
昭和20年代よりも安いのです。

現在の卵の卸売価格は、なんと60年前よりも安いのです。
一方、飼料代などの生産コストは高騰しています。
そのため採算割れを起こし、鶏卵生産者たちはどんどん
廃業に追い込まれています。

世界トップレベルの衛生管理が、
危機に直面しています。

サルモネラ菌や鳥インフルエンザウイルスなどの病原
体から卵を守るため、徹底した衛生管理を行っています。
しかし厳しい経営環境は、こうした管理システムの維持
を脅かしかねません。

卵が生で食べられない。そんな時代を阻止したい。

年を追うごとに厳しくなっている経営状況のなかでも、特に昨年からは一層厳しく、もう限界だという悲鳴が多くの仲間たちから上がってきています。それでも高い栄養価を日常的に摂れる「身近さ」や、独特の食文化である「卵の生食」を守るためにも、安全な国産鶏卵の、安定的な生産・供給に、日夜努力し続けています。私たちの苦しい現状と熱い思いを、どうか、ぜひご理解ください。

一般社団法人 **日本鶏卵生産者協会** / 社団法人 **日本養鶏協会**